

中世近世哲学演習 A2+B2/2

中世哲学のエッセンスを読む

A. シラバス

A-1. 基本情報

科目名・単位・開講期 中世近世哲学演習 A2+B2/2・2+2/4 単位・春 + 秋/通年

曜日・時限・教室 水曜日・3 時限 (13:00-14:30)・6102 教室

担当教員 上村 直樹 (KAMIMURA, Naoki)

A-2. 講義の目的・内容

中世哲学のエッセンスを英語の翻訳で読みます。この演習では、西欧中世哲学史において問われた問題群を二つに分け—論理学と認識論・自然哲学と形而上学—、それぞれのグループにおいてもっとも代表的なテキストを読むことをとおして、中世哲学の成り立ちを踏まえ、現代とは異なる、あるいは共通する哲学的な思考についての理解を深めることを目指します。

この演習では、英語のテキストを読みすすめるとともに、中世哲学の基本概念について哲学的な観点をふまえて説明します。

A-3. 学修到達目標

- A. 英語テキストを読み解くことを通して、哲学的なテキストを分析する方法に親しむ。
- B. 中世哲学の基本的な概念を踏まえて、哲学的な思考法について理解する。
- C. テキスト読解を踏まえたレポートを作成する。

A-4. 講義スケジュール

この演習では、授業に参加している人々の理解の度合いを踏まえてテキストを読み進めるので、あらかじめ定められた範囲通りに読みおえることを目指しません。

テキストを丁寧に読むことが大切なので、以下のスケジュールはあくまで目安としてください。

第 1 回 中世哲学を学ぶための指針について説明する

第 2-4 回 論理学に関するテキストを読む：古代哲学について、アウグスティヌスのテキスト『神の国』第 8 巻を読む

第 5-8 回 論理学に関するテキストを読む：普遍について、ポエティウスのテキスト『ポルピュリオス「エイサゴーゲー」注解』を読む

第 9-11 回 認識論に関するテキストを読む：イデアと照明について、アウグスティヌスのテキスト『八十三問題集』46 問を読む

第 12-15 回 認識論に関するテキストを読む：照明について、トマス・アクィナスのテキスト『神学大全』第 1 部 84 問題を読む

第 16 回 中世哲学を学ぶための指針について説明する

- 第 17-19 回 自然哲学に関するテキストを読む: 自然本性の原理について、トマス・アクィナスのテキスト「自然本性の原理」を読む
- 第 20-23 回 自然哲学に関するテキストを読む: 魂について、アウグスティヌスの諸著作からの抜粋を読む
- 第 24-30 回 形而上学に関するテキストを読む: 存在と本質について、トマス・アクィナスのテキスト『存在と本質』を読む

A-5. 指導方法

- A. テキストを輪読する。
- B. テキストを読み解くために前提となる術語、哲学史的な背景について検討する。
- C. テキストに関する疑問点を示し、問題となる箇所がどこなのかを明らかにする。
- D. テキストの論点について考察する。

A-6. 事前・事後学習

- A. あらかじめ定められた範囲のテキストについて、訳文をつくる。
- B. 訳文とテキストを照らし合わせながら、疑問となる箇所をあらいだす。
- C. 問題となる箇所について、演習を踏まえて考えをまとめる。
- D. テキストに関係すると思われる参考文献を読む。

A-7. 成績評価の方法・基準

学期末のレポート (60%)、輪読の担当と議論への参加 (40%) によって評価します。なお、成績評価の基準は東洋大学の成績評価基準に準拠します。

A-8. 受講要件

特段の要件はありません。ただし、英語テキストを詳細に読みつづけるという意欲が求められます。

A-9. テキスト

授業で使用するテキストは、担当教員のウェブサイトの本授業専用ページからダウンロードし、印刷したうえで持参してください。

なお、履修を希望する学生は、初回の授業に参加し、ウェブサイトの URL と配布するファイルを開くために必要なパスワードなど必要な情報を受けとってください。

A-10. 参考書

第 1 回目の授業において、参考文献の一覧表を配布します。また、必要におうじて担当教員のウェブサイト (http://kmmrnk.com/teaching/2018_toyo_medmodsmn) において文献表をアップロードしますので、担当教員の指示にしたがってアクセスしてください。

B. 中世哲学のエッセンスを読むために

B-1. 古代思想史略年表

BC 6-5	<i>Presocratics</i> : Thalēs, Anaximandros, Anaximenēs, Pythagoras, Hēracleitos, Parmenidēs, Zēnōn of Elea, Empedoclēs, Anaxagoras, Leucippos, Dēmocritos
BC 5	Prōtagoras, Gorgias
448	アテナイの黄金時代
431-404	ペロポネソス戦争
399	†Sōcratēs
347	†Platōn
338	†Isocratēs
323	アレクサンドロス大王逝去、ヘレニズム期の始まり
322	†Aristotelēs
BC 4	<i>Hellenistic Schools</i> 成立: Epicūros, Zēnōn of Cition, Cleanthēs, Chrysippos, Philōn of Larissa, Arcesilaos, Sextos Empeiricos
BC 3-1c.	ギリシア語訳聖書 (Septuaginta) の成立
84/83	†Philon
c. 50	アンドロニコスによる「アリストテレス全集」編纂
43	†Cicero
30	プトレマイオス朝がローマによって滅亡し、グレコ・ローマン時代がはじまる
30	†Jesus
45	†Philōn
64	†Paulus
AD 2 <i>fin.</i>	新約聖書の「正典化」がほぼ完了
c. 253/4	†Ōrigenēs
270	†Plōtinus (<i>Neoplatonists</i> : Porphyrios, Iamblichos, Proclus)
313	ミラノ勅令 (ローマ帝国によるキリスト教公認)
325	第1ニカイア公会議 (アリウス派異端とされる)
379	†Basilius
381	第1コンスタンティノーブル公会議 (三位一体論が確定)
c. 382	ヒエロニムスによるラテン語訳聖書改訂の開始 (<i>Vulgata</i>)
392	テオドシウス帝の異教禁止令
394	†Grēgorios of Nyssa
430	†Augustinus
451	カルケドン公会議 (キリストの両性論が確定)
476	西ローマ帝国滅亡
485	†Proclus
495	Clovis の洗礼
524/25	†Boethius
529	アテナイのアカデメイアがユスティニアヌス帝の命により閉鎖、 ベネディクトスがモンテ・カッシーノ修道院創設
533	シンプリキオスがアリストテレス註解を執筆
AD 6?	ディオニシオス文書が東方で成立
622	Hijra (ヒジュラ=イスラム共同体が成立)
711/12	イスラムによるスペイン征服
c. 754	†Joannes Damascenus (最後のギリシア教父)
800	Charlemagne 戴冠 (<i>Carolingian Renaissance</i>)

B-2. 中世・近世思想史略年表

800	Charlemagne 戴冠 (カロリング・ルネサンス)
877	† Eriugena
950	† Al-Fārābī
1037	† Ibn Sīnā (Avicenna)
1054	東西教会の分裂
1077	カノッサの屈辱 (教皇権全盛へ)
1095	第1回十字軍の提唱
1109	† Anselmus (Cantabury)
1111	† Ghazālī (Algazel)
c. 1142	† Abelardus
1153	† Bernard de Clairvaux
12 <i>init.</i> –	<i>Chartres School</i> : Bernard de Chartres, Thierry, Guillaume de Conches, John of Salisbury <i>Saint-Victor School</i> : Hugo de sancto Victore, Ricardus
c. 1158	Petrus Lombardus, <i>Sententia</i>
1198	† Ibn Rushd (Averroes)
c. 12 <i>fin.</i> –	ヨーロッパ各地に大学創立 (Bologna, Sorbonne, Oxford, Padova, Napoli)
1216	ドミニコ会の認可
1223	フランシスコ会の認可
1226	† Francisco (Assisi)
1231	パリ大学へのグレゴリウス9世の大勅書
1274	† Thomas Aquinas — † Bonaventura
1277	パリ司教による異端的なアリストテレス主義への禁令
1280	† Albertus Magnus
1284	† Sigerus (Brabant)
1292/4	† Roger Bacon
1293	† Henricus (Ghent)
1308	† Joannes Duns Scotus
1309	アヴィニョン捕囚 (-1377)
1328	† Meister Johannes Eckhart
1340's	黒死病流行
1347	† William Ockham
1358	† Jean Buridan
1378(-1417)	2教皇並立による教会大分裂
1464	† Nicolaus Cusanus
1499	† Marcilio Ficino
1517	Luther 95 theses (宗教改革)
1534	イエズス会の認可
1617	† Suárez
1650	† Descartes
1677	† Baruch Spinoza
1704	† John Locke
1715	† Nicolas Malebranche
1716	† Gottfried Leibniz
1753	† George Berkeley
1776	† David Hume
1776	アメリカ独立宣言
1778	† Jeand-Jacques Rousseau
1789	フランス革命の開始
1804	† Immanuel Kant

C. 参考文献

この演習では、何人かの哲学者・神学者のテキストを取りあげます。

そこで、これらのテキストを読むために参考となる文献を、「哲学史的な背景」「原典テキストの翻訳」「キリスト教史」の三項に分けて紹介します。

c-1. 古代・中世哲学史

1. A. H. アームストロング『古代哲学史 タレスからアウグスティヌスまで』岡野昌雄・川田親之訳 (みすず書房, 1987).
2. 『西洋哲学史 古代・中世編 フィロソフィアの源流と伝統』中川純男・内山勝利編 (ミネルヴァ書房, 1996).
3. テレンス・アーウィン『西洋古典思想—古代ギリシア・ローマの哲学思想』川田親之訳 (東海大学出版会, 2000).
4. クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー (平凡社, 2000).
5. 『中世哲学を学ぶ人のために』中川純男・加藤雅人編 (世界思想社, 2005).
6. アラン・ド・リベラ『中世哲学史』阿部一智・永野潤・永野拓也訳 (新評論, 1999).
7. 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書 (岩波書店, 2006).
8. 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書 (岩波書店, 2006).
9. 内山勝利責任編集『哲学誕生 始まりとしてのギリシア【古代 I】』「哲学の歴史」1 (中央公論新社, 2008).
10. 内山勝利責任編集『帝国と賢者 地中海世界の叡智【古代 II】』「哲学の歴史」2 (中央公論新社, 2008).
11. 中川純男責任編集『神との対話 信仰と知の調和【中世】』「哲学の歴史」3 (中央公論新社, 2008).
12. 神崎繁・熊野純彦・鈴木泉責任編集『西洋哲学史 I 「ある」の衝撃からはじまる』講談社選書メチエ (講談社, 2011).
13. 神崎繁・熊野純彦・鈴木泉責任編集『西洋哲学史 II 「知」の変貌・「信」の階梯』講談社選書メチエ (講談社, 2011).

c-2. 原典テキストの翻訳

1. 『プラトン全集』全 15 巻 (岩波書店, 1974-76).
2. 出隆監修・山本光雄編集『アリストテレス全集』全 17 巻 (岩波書店, 1968-73).
3. 内山勝利・神崎 繁・中畑正志編集『新版 アリストテレス全集』全 20 巻 + 別巻 (岩波書店, 2014-刊行中).
4. 『初期ストア派断片集』全 5 巻「西洋古典叢書」1. ゼノン他 中川純男訳; 2. クリュシッポス 水落健治・山口義久訳; 3. クリュシッポス 山口義久訳; 4. クリュシッポス 中川純男・山口義久訳; 5. クリュシッポス他 山口義久・中川純男訳 (京都大学学術出版会, 2000-2006).
5. 『プロティノス全集』全 4 巻 + 別巻, 田中美知太郎・水地宗明・田之頭安彦訳 (中央公論社, 1986-88).
6. 上智大学中世思想研究所編訳・監修『中世思想原典集成』全 20 巻 + 別巻 (平凡社, 1992-2002): 全巻の構成については、(<http://kmmrnk.com/mediaeval-philosophy/20130204>) を参照。
7. 『アウグスティヌス著作集』全 30 巻 (教文館, 1979-刊行中): 『著作集』以外の邦訳については、さらに <http://kmmrnk.com/research/publications/cooper/#bibliography> を参照。
8. 『アンセルムス全集』古田暁訳 (聖文舎, 1980).
9. トマス・アクィナス『神学大全』高田三郎・山田晶・稲垣良典他訳 全 45 巻 (創文社, 1960-2012).
10. 山田晶編訳『トマス・アクィナス』全 2 巻 川添信介補訂 中公クラシックス (中央公論社, 2014).

C-3. キリスト教史全般

1. 加藤隆『一神教の誕生——ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書 (講談社, 2002).
2. 手島勲矢編『わかるユダヤ学』(日本実業出版社, 2002).
3. 八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』朝日文庫 (朝日新聞出版, 2012).
4. 上智大学中世思想研究所編訳『キリスト教史』全 11 巻, 平凡社ライブラリー (平凡社, 1996–1997): 全巻の構成については、(http://imdthght-sophia.sakura.ne.jp/?page_id=17) を参照。
5. 小高毅編『原典古代キリスト教思想史』1 初期キリスト教思想家; 2 ギリシア教父; 3 ラテン教父 (教文館, 1999–2001).
6. 『キリスト教教父著作集』全 22 巻 (教文館, 1987–刊行中): ユスティノス、エイレナイオス、アレクサンドリアのクレメンス、オリゲネス、ミヌキウス・フェリックス、テルトゥリアヌス、キプリアヌス、ラクタンティウス、ヒッポリュトス、エウセビウスの著作を含む。
7. アリスター・E. マクグラス『キリスト教思想史入門 歴史神学概説』神代真砂実、関川泰寛訳 (キリスト新聞社, 2008).
8. J. N. D. ケリー『初期キリスト教教理史』上下、津田謙治訳 (一麦出版社, 2010).
9. A. メレディス『カッパドキア教父 キリスト教とヘレニズムの遺産』津田謙治訳 (新教出版社, 2011).